

2018 競技者必携 修正点

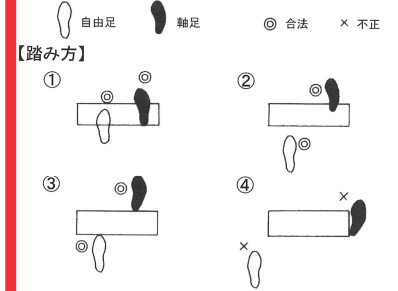
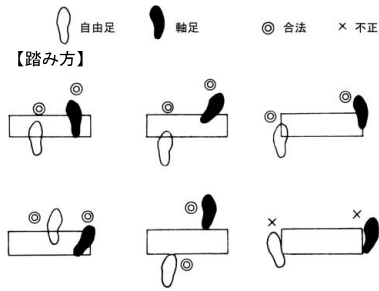
2017 競技者必携

2018 競技者必携

P120

[右投げ投手]

[右投げ投手]



(注) 自由足・軸足とも、両足が投手板に触れていれば、合法的な投手板の踏み方である。ただし、足が投手板の側面だけに触れている場合は投手板に触れているとはみなさない。

(注) 自由足・軸足とも、両足が投手板に触れているが、**軸足を投手板に触れながら、自由足を後方に置き**、のは合法的な投手板の踏み方である。ただし、**左図④のように軸足が投手板の側面だけに触れている場合は投手板に触れているとはみなさない。また、自由足を投手板の後ろに置く場合は、投手板の両端の後方延長線内に置かなければならない。**

図1のように自由足がバックステップして、投手板から離れると不正投球になる。ただし、一連の投球動作の中で、つま先が浮いて投手板から離れても、投球開始時と踵の位置が変わらなければ、合法的な投球動作であり、不正投球とはみなさない。

上図②、下図(図1)のように自由足が投手板から離れていても**不正投球にはならない**。また、一連の投球動作の中で、つま先が浮いて投手板から離れても、投球開始時と踵の位置が変わらなければ、合法的な投球動作であり、不正投球とはみなさない。

[踏み出し方]

[踏み出し方]

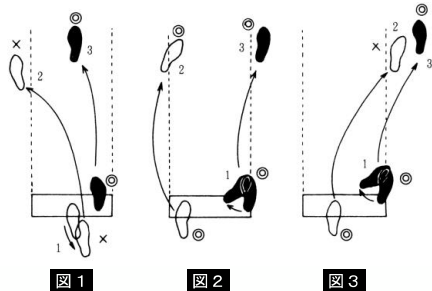


図3のように軸足の踵が一連の投球動作の中で投手板から離れても、つま先の位置が投球開始時と変わっていなければ(つま先が前方に移動していなければ)、合法的な投球動作であり、不正投球とはみなさない。

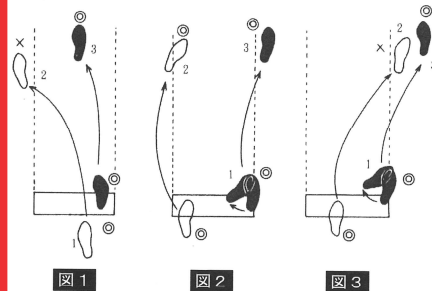


図3のように軸足の踵が一連の投球動作の中で投手板から離れても、つま先の位置が投球開始時と変わっていなければ(つま先が前方に移動していなければ)、合法的な投球動作であり、不正投球とはみなさない。

P120

※修正理由 R6- 項3及び5のルール改正に伴い、イラスト及び解説文を改正されたルールに合わせ、修正した

P121

10. 投手板の踏み方・踏み出し方

P121

10. 投手板の踏み方・踏み出し方

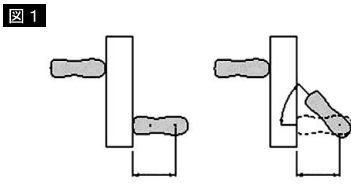


図1 投手板に両足が触れ、正しくセットしており、軸足のつま先の位置が投球開始時と変わらなければ、その後の一連の投球動作の中で踵が投手板から離れても不正投球とはみなさない。

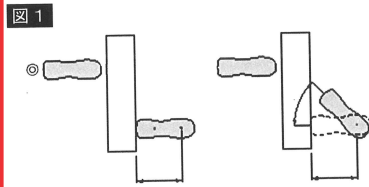


図1 投手板に両足が触れ、もしくは軸足を投手板に触れながら、自由足を後方に置き、正しくセットしており、軸足のつま先の位置が投球開始時と変わらなければ、その後の一連の投球動作の中で踵が投手板から離れても不正投球とはみなさない。

自由足は投手板から離してもよい
(※投手板の両端の後方延長線内)

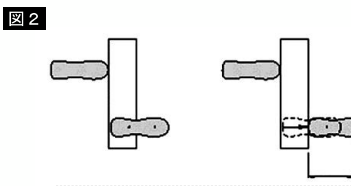


図2 投手板に両足が触れ、正しくセットしており、軸足が投手板の上を斜めにスライドしても合法的な投球動作である。また、軸足のつま先の位置がスライドさせた地点と変わらなければ、その後の一連の投球動作の中で踵が投手板から離れても不正投球とはみなさない。

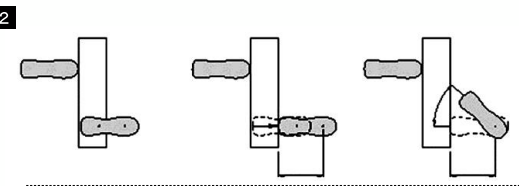


図2 投手板に両足が触れ、もしくは軸足を投手板に触れながら、自由足を後方に置き、正しくセットしており、軸足が投手板の上を斜めにスライドしても合法的な投球動作である。また、軸足のつま先の位置がスライドさせた地点と変わらなければ、その後の一連の投球動作の中で踵が投手板から離れても不正投球とはみなさない。

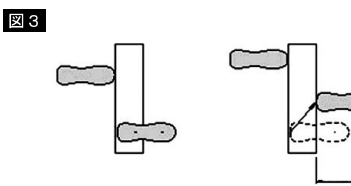


図3 投手板に両足が触れ、正しくセットしており、軸足が投手板の上を斜めにスライドしても合法的な投球動作である。また、軸足のつま先の位置がスライドさせた地点と変わらなければ、その後の一連の投球動作の中で踵が投手板から離れても不正投球とはみなさない。

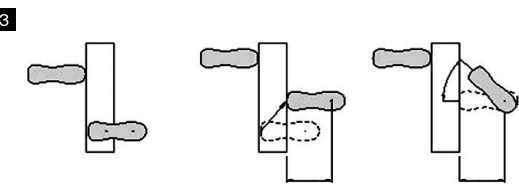


図3 投手板に両足が触れ、もしくは軸足を投手板に触れながら、自由足を後方に置き、正しくセットしており、軸足が投手板の上を斜めにスライドしても合法的な投球動作である。また、軸足のつま先の位置がスライドさせた地点と変わらなければ、その後の一連の投球動作の中で踵が投手板から離れても不正投球とはみなさない。

※修正理由 R6- 項3及び5のルール改正に伴い、イラスト及び解説文を改正されたルールに合わせ、修正した